

メチル水銀の胎児影響 ― 原点としての水俣病

坂本 峰至 (国立水俣病総合研究センター 所長特任補佐)

1. 原田正純先生との思い出

1. 1981 年、岩波新書『水俣病』を手に入水俣入り
2. 水俣病、とくに胎児影響を研究課題とすることを決意
3. 原田先生発案の保存臍帯を用いた研究を、例数を増やして汚染分布の検討

2. 水俣に関わることになったきっかけ

1. 1977 年 鹿児島大学大学院医学研究科にて水銀研究開始と学位取得
2. 1981 年 国立水俣病研究センター採用
3. 主な研究成果:
 - 胎児期・乳児期におけるメチル水銀移行
 - 保存臍帯を用いた水俣地域のメチル水銀汚染分布解析
 - 水俣における出生性比の低下の確認
 - 歯クジラ肉摂取による水銀曝露と健康影響の評価
 - 水俣湾ヘドロの化学形態別分析による環境リスク評価

3. 国際活動

1. アマゾン地域の水銀問題に関する調査研究 (赤木洋勝先生との共同研究)
2. WHO の依頼による健康影響調査
3. ベトナム・蛍光管工場火災に伴う水銀曝露調査 (赤木先生との最後の調査)

4. 研究を続ける理由

1. 水俣病の科学的本質を探究するために、疑問に挑み続ける
2. 教育と情報発信:
 - ブラジル南パラ州立大学、東北大学、熊本県立大学 (客員教授) など
 - 日本毒性学会、メチル水銀ミーティング、環境研修所などでの講演
 - 新聞・テレビなどを通じた社会への情報発信

5. 最近の研究と今後の課題

1. 水俣湾へのセレン流出と水俣病発症の関連解析 (科研費・代表者)
2. 情報発信・国際研究:
 - 水俣病および水銀汚染に関する総説執筆 (環境省班研究・研究協力者)
 - ネパール仏像金メッキ作業による水銀曝露調査 (科研費・分担者)